キッツ（6498）25/12期決算分析および26/12期展望

半導体市場回復とデータセンター需要を追い風に、過去最高益更新へ

Rating & Valuation

評価: ややポジティブ（継続）

株価 (2/24) : 2,202円

目標株価: [Open Field]

PER (予想) : 15.1倍

PBR (実績) : 1.62倍

配当利回り: 2.67%

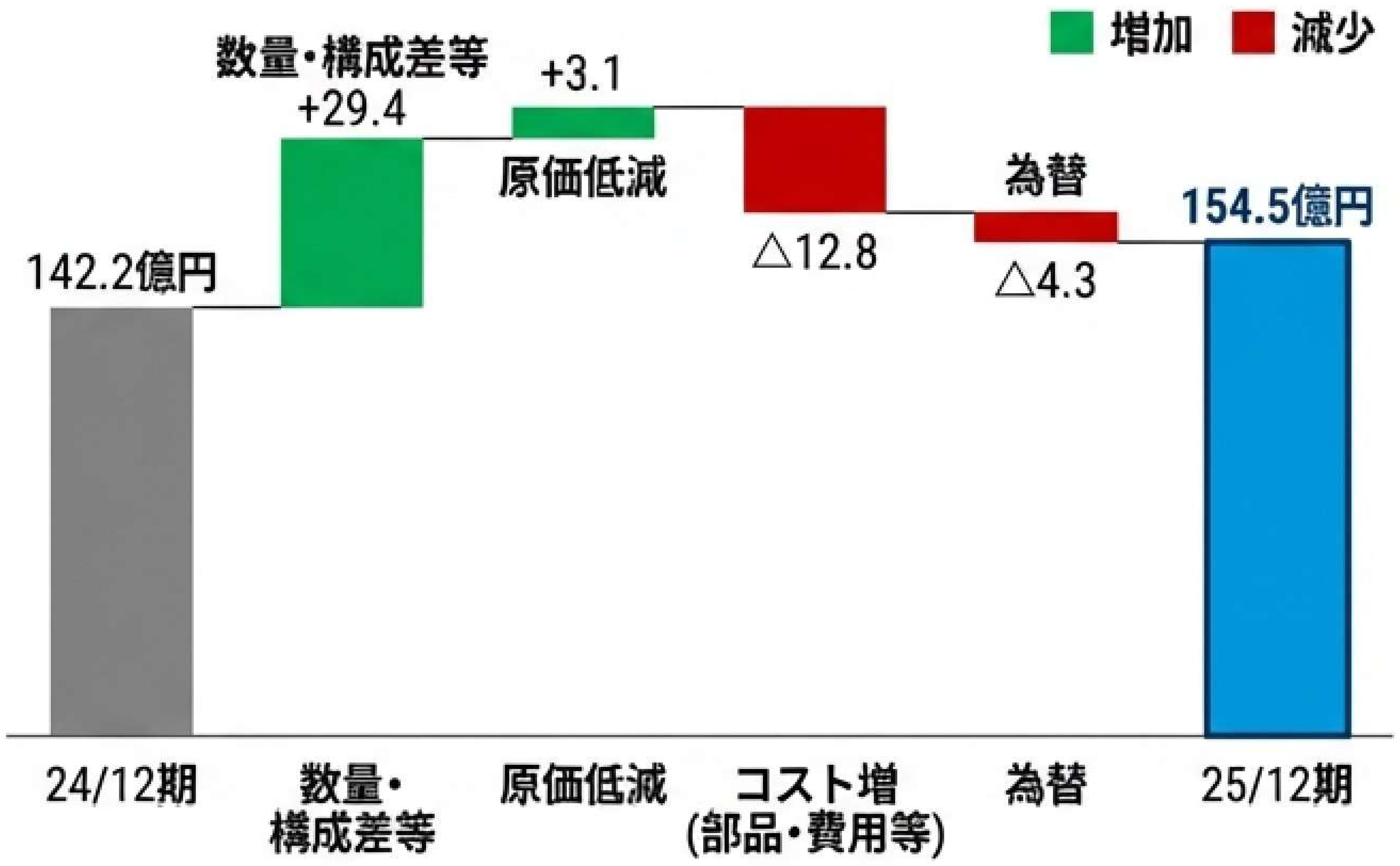
Key Takeaways

- 25/12期実績：半導体装置向け回復遅れを価格改定効果と海外販売増、伸銅品の好調でカバーし、売上高・営業利益ともに増収増益を達成
- 26/12期予想：売上高1,950億円、営業利益170億円と過去最高更新を見込む。半導体市場の本格回復と「メタルS事業」への転換が寄与
- 中期成長：27/12期の中計目標（売上2,000億円、OP200億円）に向け、データセンター冷却（液冷）や水素・知財ビジネスなど新領域が具体化
- 株主還元：26/12期配当予想は59円（配当性向40.4%）、自己株式取得も含め総還元性向は高水準を維持

25/12期決算総括：価格改定と為替効果で最高益圏を維持

	総額	前期比
売上高	1,766億円	前期比 +2.7%
営業利益	154億円	前期比 +8.7%
経常利益	160億円	前期比 +5.2%
当期純利益	114億円	前期比 △3.0%

営業利益増減要因



バルブ事業は半導体装置向けの回復遅延があるものの、海外市場での販売増と価格改定が寄与。伸銅品事業は販売量増加と銅相場上昇に伴う利幅改善で大幅増益。

KITZ

セグメント分析① バルブ事業（総論）

売上高：1,414億円
(+1.3%)

営業利益：154億円
(+10.0%)

営業利益率：10.9%
(+0.9pt%)

価格改定
24年実施の価格改定効果が
通期で寄与し、原材料・
エネルギーコスト上昇を吸収

収益性改善
高付加価値製品へのシフトと
不採算製品の是正が進展

市場環境
半導体市況の低迷を、
建築設備や一般産業向けの
堅調な需要と価格転嫁力で相殺

KITZ セグメント分析② バルブ事業（市場別動向）

半導体製造装置

回復は予想より遅れ、顧客の在庫調整が継続。ただし第4四半期より受注は底打ち反転の兆し。

建築設備

国内市場は都市再開発案件やデータセンター建設需要により極めて堅調。価格改定の浸透率も高い。

石油・ガス・化学

海外プロジェクト向けが堅調に推移。
北米のダウンストリーム需要が底堅い。

水処理

上下水道インフラ更新需要により安定推移。

セグメント分析③ バルブ事業（エリア別動向）

KITZ セグメント分析④ メタルS事業（旧伸銅品事業）

Evolution

旧名称：伸銅品事業（Brass Business）
素材供給中心

→

新名称：メタルS事業（Metal Smart/Solution）
高付加価値加工・ソリューション

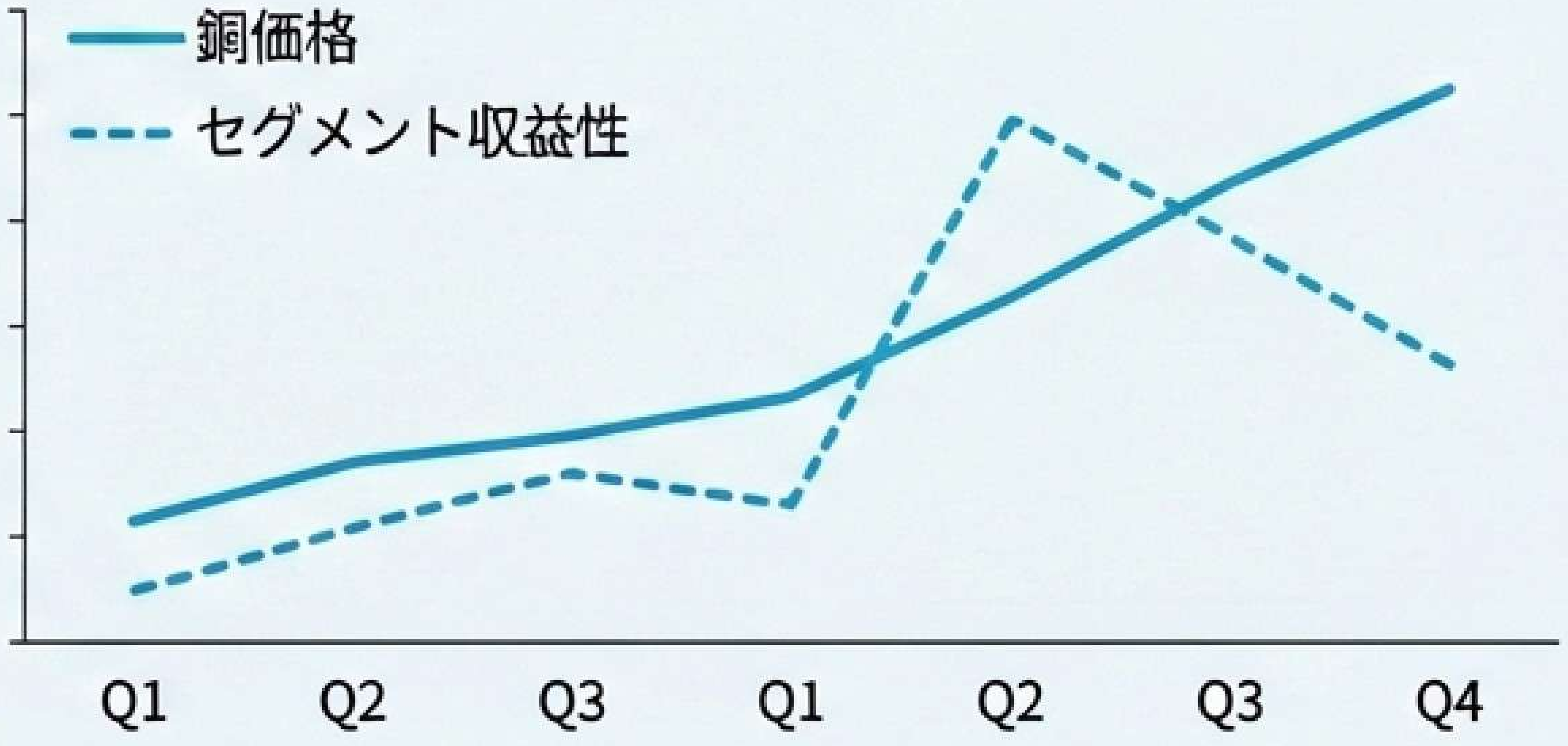
業績（Performance）

- 売上高：325億円（+9.0%）
- 営業利益：8.65億円（減益）

コメント

炉の修繕費影響を銅価格上昇で補いきれず微減益。

Copper Price Trend & Segment Profitability



KITZ その他セグメント・営業外損益の状況

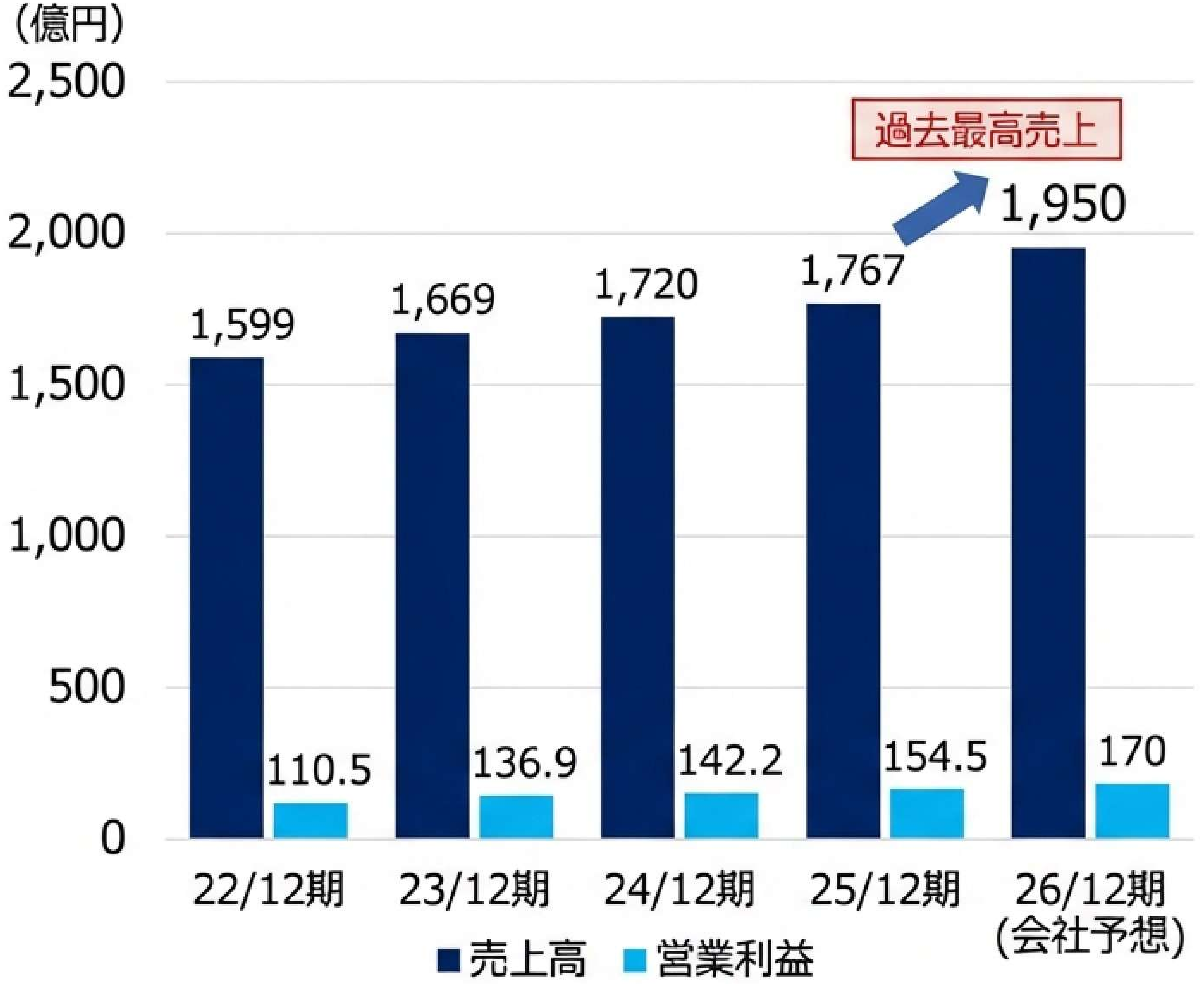
その他セグメント（Other Segment）

ホテル事業（ホテル紅や）	観光需要回復、稼働率向上により増収増益
サービス事業	安定推移

営業外・特別損益（Non-Operating & Extraordinary）

為替差損益	円安基調による差益計上も、デリバティブ評価損益等で調整
支払利息	金利上昇局面だが有利子負債コントロールにより影響限定的
特別利益	政策保有株式の縮減に伴う投資有価証券売却益を計上

26/12期 業績予想：過去最高売上・利益への挑戦



連結業績予想概要

- **売上高：1,950億円**
  （前期比 +10.4%）
- **営業利益：170億円**
  （前期比 +10.0%）
- **経常利益：174億円**
  （前期比 +8.3%）
- **当期純利益：127億円**
  （前期比+10.8%）

前提条件：為替 1ドル=145～150円（保守的）、銅建値 1,100～1,200円/kg

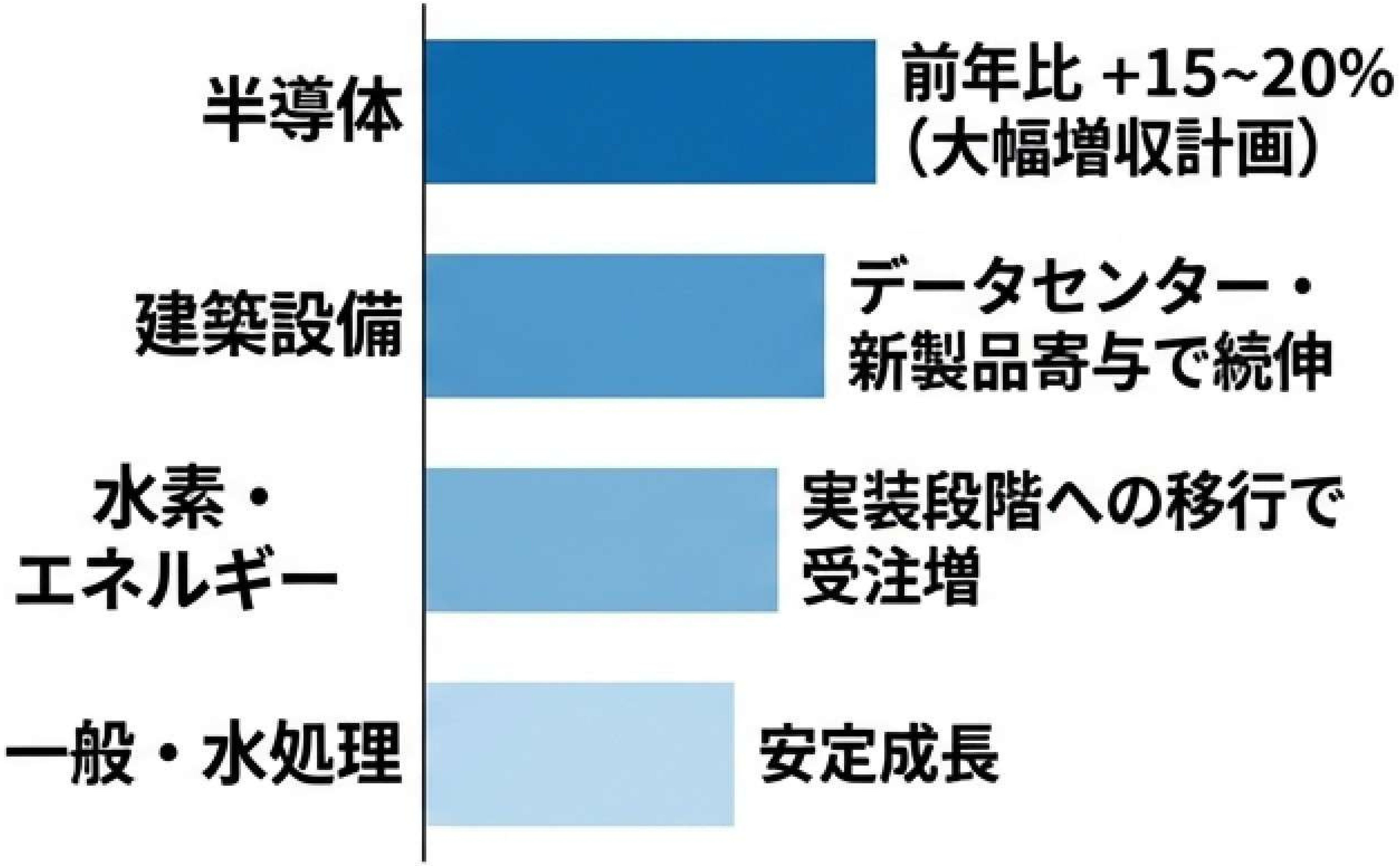
KITZ 26/12期 セグメント別・市場別予想

セグメント別予想

	売上	調整前営業利益
バルブ事業	1,562億円 (+10.5%)	209億円 (+10.8%)
メタルS事業	360億円 (+10.7%)	10億円 (+15.6%)

バルブ市場別予想 (Valve Market Forecast)

成長率による並べ替え



Commentary

半導体市場の回復とデータセンター需要が全社の成長を牽引する計画。

26/12期 業績予想の妥当性と達成確度

ポジティブ要因 (Positive Forces)

価格改定効果:
25年実施分の残存効果
+26年追加適正化

半導体底打ち:
25年4Qの受注残高増が
上期売上を担保
(受注残高トレンド参照)

ベトナム生産:
生産移管進展による
コスト競争力強化

リスク (Risks)

中国経済:
不動産不況の長期化

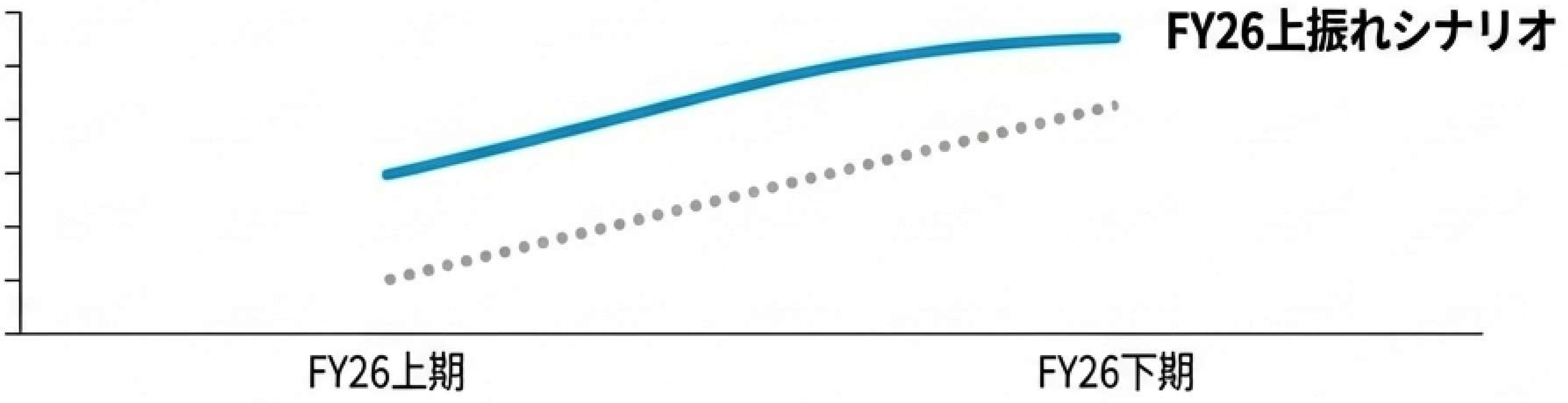
為替変動:
急激な円高進行リスク

結論:
保守的な為替想定と積み上がった受注残を考慮すると、営業利益170億円は十分に達成可能な水準。

KITZ GROUP SPIRIT

上振れ余地の検証：半導体向け拡大が早まり上振れの可能性

半導体関連事業：受注季節性 vs 上振れシナリオ



上振れ要因 (Upside Drivers)

- **受注先行指標:** 25年4Q時点で半導体装置向け受注が平均水準へ急回復。
- **WFE市場予測:** AI半導体・HBM需要により26年は前年比二桁成長予測。
- **在庫サイクル:** 顧客の在庫調整が完了し、実需に合わせた発注が上期から本格化。

結論:
会社計画の上期予想は保守的であり、半導体セクターの牽引による上方修正の可能性あり。

中計「Beyond New Heights 2027」定量目標との整合性

売上高ギャップ	残りわずか50億円。年率2.5%成長で達成可能であり、ハードルは低い。
営業利益ギャップ	FY26予想 170億円 -> FY27目標 200億円（残り30億円）。
ドライバー	バルブ事業（半導体・データセンター）の成長率が想定を上回れば、中計目標の前倒し達成も視野に入る。

成長戦略① 半導体製造装置向け（現状と強み）

- **市場地位**
  クリーンルーム内での高純度バルブ・継手で高いシェアを獲得。
- **供給体制**
  ベトナム工場および国内工場の増強完了。
- **製品群**
  真空バルブ、ガス系バルブ、薬液用バルブのフルラインナップ化。
  キッツエスシーティー（子会社）との連携。

成長戦略② 半導体製造装置向け（次世代・拡大戦略）

Tech Node Evolution

微細化対応 (Miniaturization)

ALD/EUV露光装置向け
超高温・超高耐久バルブ

領域拡大 (Expansion)

周辺機器（フィルタ、センサー、ヒーター）を含むサブシステム提案

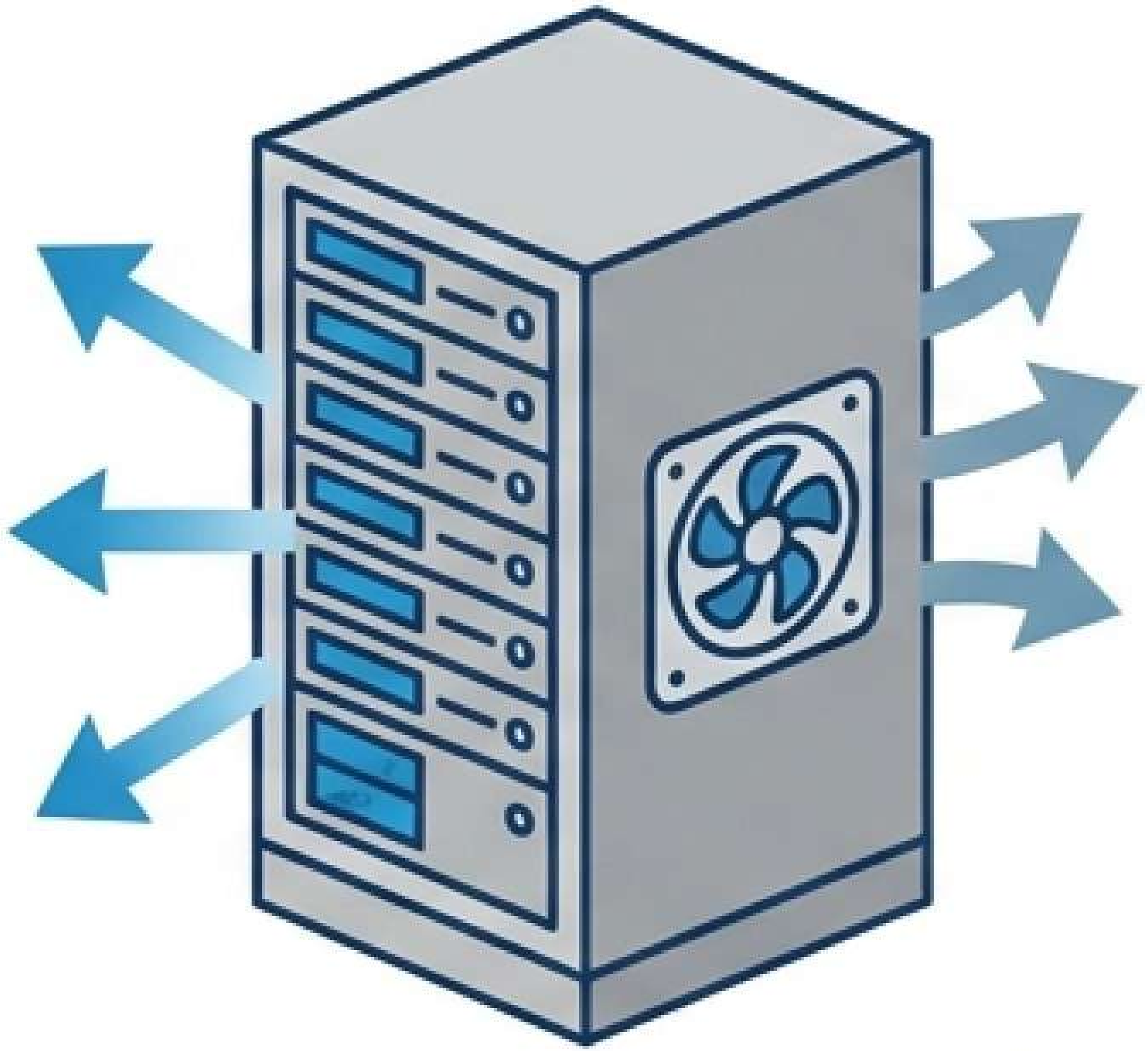
Target

半導体装置市場のCAGR（10%超）を上回る売上成長を目指す。

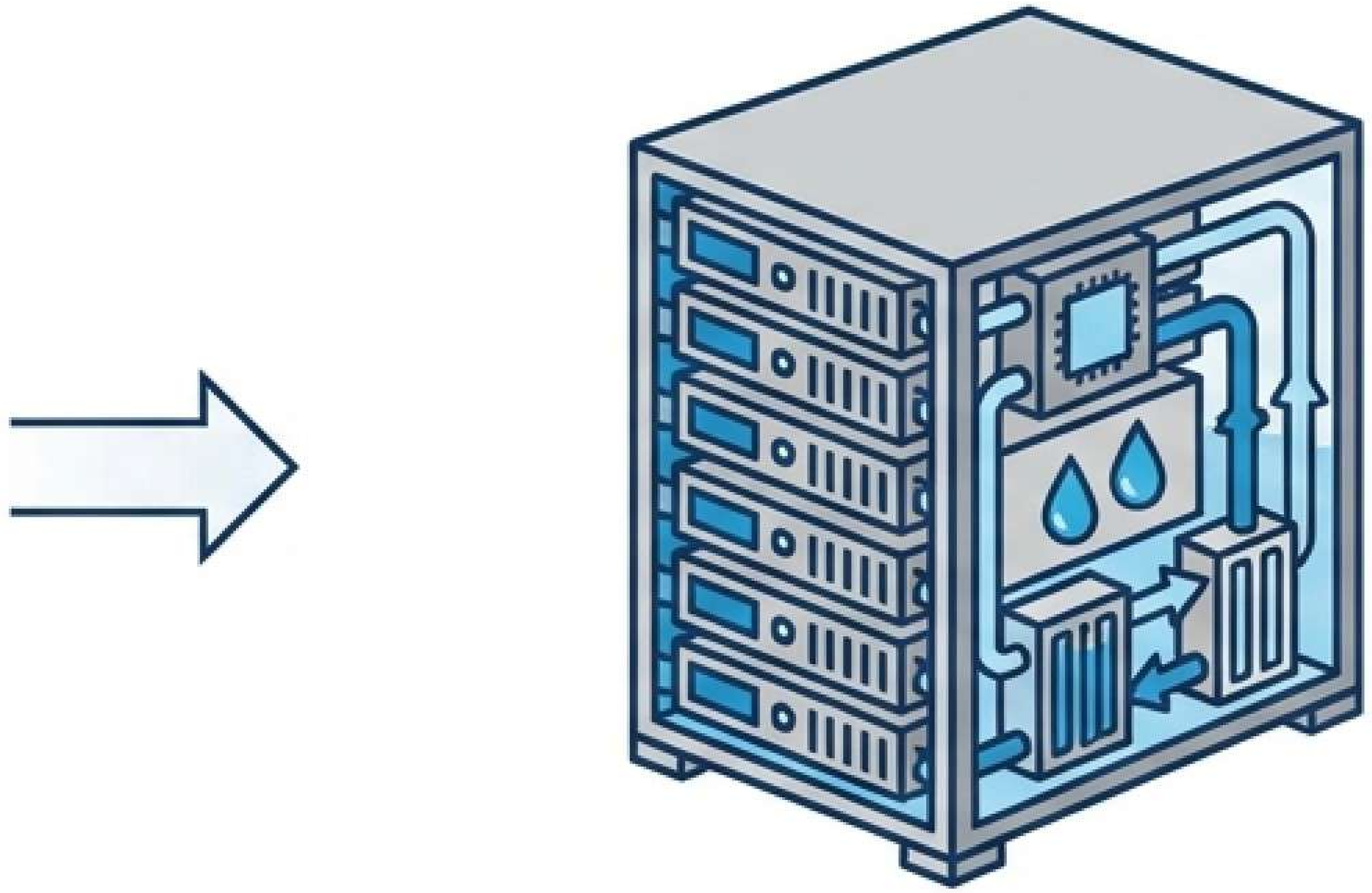
Investment

開発リソースの集中投下とM&Aによる技術獲得。

成長戦略③ データセンター向け（市場環境の変化）



従来型（空冷）– 限界



AIサーバー（液冷）– 急拡大

- **生成AIの普及**: GPUサーバーの発熱量増大により、空冷方式が物理的限界へ。
- **液冷シフト**: 水冷・液浸冷却システムの採用が急加速。
- **インフラ需要**: チラー（冷却水循環装置）周りの大口径バルブ需要も同時発生。

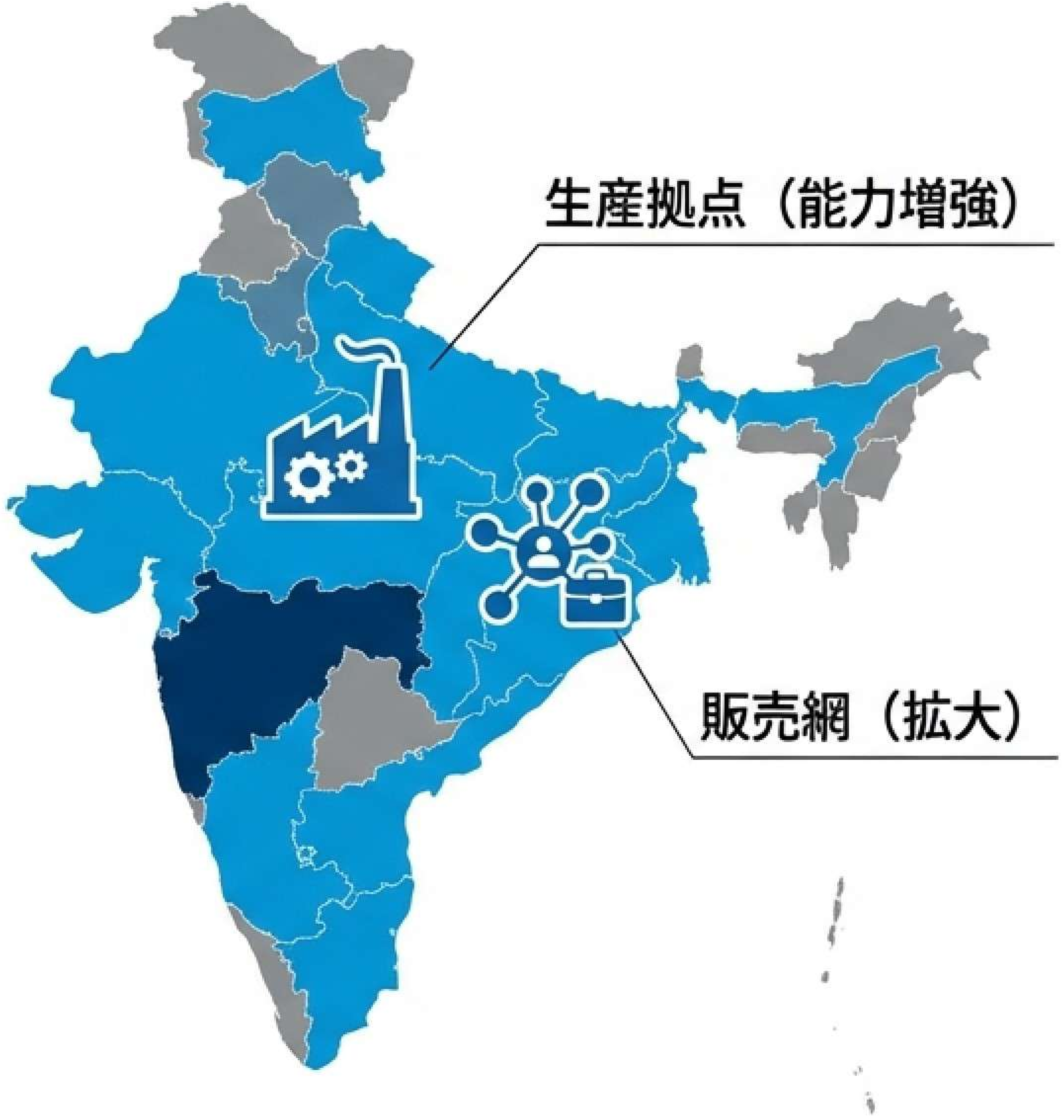
成長戦略④ データセンター向け（ソリューション展開）

Data Center Cooling Loop

Synergy Advantage

建築設備用バルブ（インフラ側）と精密流体制御（サーバー側）の両面からトータル提案できる、世界でも稀有なバルブメーカーとしての強みを発揮。

グローバル戦略：インド市場への本格展開



- **市場ポテンシャル**
  インフラ整備、水処理、製造業の進出ラッシュによるバルブ需要急増。
- **戦略**
  「地産地消（Local for Local）」。インド国内生産拠点の能力増強と製品ラインナップ拡充。
- **ターゲット**
  産業用バルブおよびインフラ用バタフライバルブでのシェア獲得。
- **販売網**
  代理店ネットワーク拡大と日系・欧米エンジニアリング会社へのスペックイン。

16:9
Roboto Condensed
KITZ Corporate Blue
Noto Sans JP Regular

KITZ Group Spirit Institutional Equity Research Report

評価: ややポジティブ

株価は新高値圏にあるが、業績成長と割安感を考慮しポジティブ評価を継続。

バリュエーション: 割安

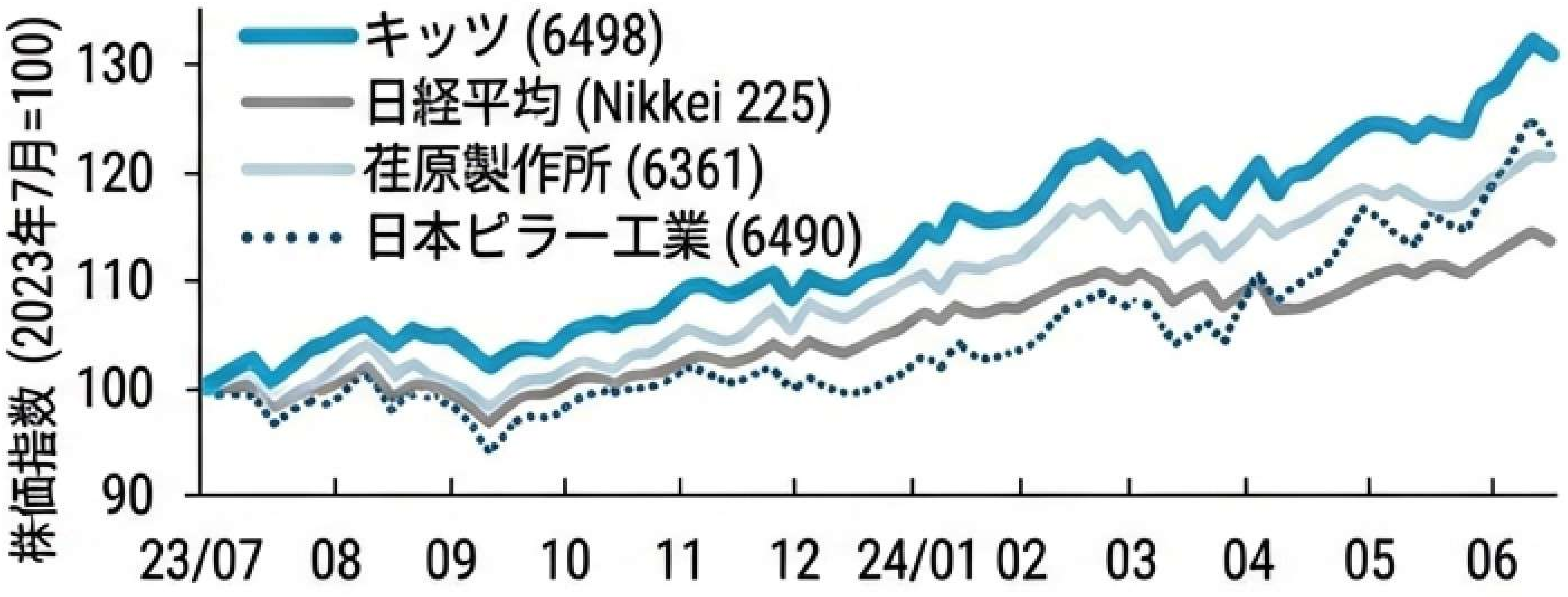
- PER (26/12期予): 15.1倍 vs 機械セクター平均 約20倍

株主還元: 高水準

- 配当予想 : 59円/株 (配当性向 40.4%)
- 機動的な自己株式取得の実績あり。

キッツ株価推移

相対株価チャート



日経平均をアウトパフォーム　特に半導体関連（ピラー等）との連動性が高まりつつある。
荏原製作所（半導体・インフラ）と比較しても、バリュエーション面での出遅れ修正が期待される。